

子どもたちに あたたかな家庭を 里親制度

虐待や貧困、親の病気など、さまざまな事情で本来の家庭で暮らせない子どもたちが県内には約600人います。こうした子どもたちを支援する「里親制度」について、正しく理解していただくため、今回は「里親制度」とは何か、県ではどのような取組をしているかをご紹介します。まずは知ることから始めてみませんか。

里親制度とは？ 本来の家庭で生活できない子どもを自分の家庭に迎え入れ、養育すること。このように子どもを公的に養育する仕組みを“社会的養護”といい、乳児院や児童養護施設など施設での養育と並び、里親は重要な役割を担っています。

特に、子どもにとって家庭での養育は、自分が受け入れられているという安心感による自己肯定感の向上や人との信頼関係の築き方の習得など、健全な成長を促してくれる大切なものです。

いろいろある里親のかたち(一部)

養育里親 本来の家庭に戻るまでまたは自立するまで。短期間の養育も

一定期間養育する里親のこと。期間は、原則18歳になるまでですが、数日から数カ月、数年と子どもの状況により異なります。

本県では約300人、さまざまな世代の方が里親として活動しています

養子縁組里親 養子縁組が前提

養子縁組を希望し、縁組されるまでの間子どもを養育する里親のこと。

親族里親 3親等以内の親族が子どもを養育

祖父母などの扶養親族等が養育する里親のこと。

里親になるためには？ 所定の研修を受け、安定した生活基盤など一定条件を満たせば里親として登録できます。何より、子どもの養育についての理解と熱意を持っていることが大切です。

里親へのサポートは？ 子どもの養育に必要な生活費、教育費、医療費などの支給のほか、以下のサポート等が受けられます。

- 専門員による相談対応
- 一時的に休息するための援助
- 里親同士の交流会への参加

詳しくは、県ホームページでご確認ください

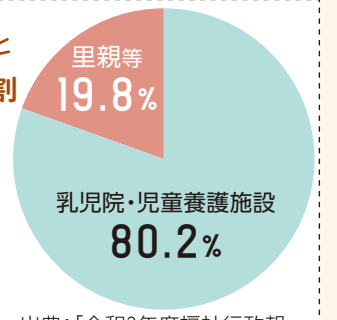


本県の現状は？

社会的養護が必要な子どものうち、**里親の元で生活する子どもの割合は約2割**

里親の元で生活する子どもはなぜ少ない？

養育に対する不安等から、特に“養育里親”の登録者数が増えず、子どものさまざまなニーズ(居住地や期間等)に十分対応できないなどの要因が考えられます。



出典:「令和2年度福祉行政報告例」(厚生労働省)

県ではどのような取組を行っている？

県では、より多くの子どもが里親の元で生活できるよう、さまざまな取組を進めています。

「栃木フォスタリングセンター」を開所

今年10月に開所した同センターでは、一連の里親養育支援業務(フォスタリング業務)を関係機関と連携しながら実施しています。

●所在地:宇都宮市駒生町1837-3 ●開所日時:火曜～土曜(祝休日・年末年始を除く)午前9時～午後5時

問同センター ☎028-612-6970

詳しくは→



センターの主な取組

- 普及啓発** 里親制度についての各種広報活動を実施
- リクルート** 里親として活動する方を増やすため、県内各地で説明会等を開催するほか、個別相談に対応
- 研修・トレーニング** 里親登録に必要な研修をはじめ、初めて子どもを養育する方のための研修や養育力を高めるためのトレーニング等を実施
- 里親養育等支援** 養育に関する相談や家庭訪問など、子どもを委託した里親に寄り添ったさまざまな支援を実施

本県独自の養育里親の“愛称”を決定

県民の皆さまが里親制度をより身近に感じ、社会全体の理解が進むよう、公募により養育里親の愛称を「とちのきフォスター」に決定しました。

愛称に込められた思い

しっかり根を張り大きく育つ県木「トチノキ」に、英語で里親を意味する「フォスター」を組み合わせ、愛情込めて育てる里親と、その愛情を受け安心してすくすく育つ子どものイメージを柔らかく表現しました。



スタッフの方にお話を伺いました

INTERVIEW

センターには、現在も里親として子どもを養育している方もいらっしゃいます。経験豊富なスタッフお二人に、里親としての体験談などを伺いました。



里親になったきっかけは？ **島山** 子育てが一段落し、児童虐待防止が目的のNPO法人立ち上げに参加したことがきっかけです。

石川 児童養護施設職員だったことから里親に関心があり、施設で関わっていた子どもの委託打診を機に、養育里親になりました。

里親になって良かったことは？ **島山** 人間として成長したと思えること。また、子どもたちと過ごすひとときの中で、楽しいことや心から幸せを感じる時があることですね。

石川 私も子どもたちとの出会いはもちろんのこと、関わる多くの人たちとの出会いを通して人として成長させてもらったことです。

大変だったことは？ **島山** 子どもが反抗的になる、警察のお世話になるなど養育がうまくいかず苦勞したこと。ただ、そのときは大変でも、里親としてのトレーニングになりましたね。

石川 里親を始めたばかりの頃、迎え入れた子どもが通う中学校で子どもへの偏見を感じ、対応に苦慮したことを覚えています。

読者の方へメッセージ **島山** 里親として生きていく日々は、とても充実した人生になると思います。里親を必要としている子どもがいるということをぜひ考えてみてください。

石川 子育てには正解がなく、誰かに相談する力が養育力になるということを学びました。皆さんも里親として、私たちと力を合わせ一緒に子どもを育ててみませんか。



子どもたちが安心して暮らせるように...

この制度を知り、里親に少しでも興味を持たれた方は、センターまたはお近くの児童相談所までお気軽にご連絡ください。

将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、皆さまの地域の里親および子どもたちの生活しやすい環境づくりにご協力をお願いします。